

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak

LICENSED PRODUCT

3/Color Black

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

月宵鄙物語

1799



1799
1-9



門内 1799

ナラナリ極リ
馬麻ゲ文本故
決しテ借リ終
十若シ借ルナ
又借終

庫談小語
精史戲胎

否々鳥唐

藤野海

宵鄙物誌序

高田屋

高田屋

高田屋

四才歌垣主人

明治四年四月二十四日
藤野海
氏寄贈

級山の月をむとそかこふ
鏡臺より外山に向ひて
人ども居をみてあよみ
人あふれお芳ゆき
中をいよかた少
あふて人あるふもい

卯内

鏡を以て然つらむやうめてはし昇る光の尋常の月のありき
 之つよふ合せられ斗あり。大もまるともよらるるものよよく
 はよりて見えゆる空のをたぬらるる高欄を押し立て木曾
 の森衣まらり手しる傍。傍の人よ對ひよ。月の周の百五十
 由旬ありと物あてえ終へが。今宵の宵ふたりとされがともやと
 思ひ終るると。そこよひのうらやうのうらやうのうらやうの桂も
 指さるるうらやうのうらやうのうらやうのうらやうの桂も
 流るる雲の浮る言とおひひをり。さともはるるうらやうのうらやうの桂も
 心もあふり。これをよて奥の方より。然れハ第八三ふ乃益毫も
 度ぐとらるるやとひもまがさへ白衣悪衣の天人の教

指をり。月御浩襟まといと物う。月とえ男をさ入毎人まを
 かさみろ織敷ぬいひうらを。耳うるさく傍とやとひけん
 連歌流の中より。然るるれ月の中疾射の桂の隈も
 あり。え明らら終るぬ。蓮りま。異剛が芥やとらうらひゆる
 と啼るをもえありて人よと傍と傍とらうらも。我ハ傍と
 やらんがらうて奔らん不死の業をも教り。それとははるるふ
 まさかこより。それも月をこそ光とらこそあらぬ。はすうらうら
 たらうらとらうら。孫子ゆらままこらままれ果ハ此山よや桂られ
 まん。やうらるる物宿らるる癡くる。假暮ふこそ。我ハハ光とら
 がかりゆる。能くをこそ盗まめと利にまれば。かきもらひひひ

中納言家成の家歌合

源仲正

とくさうる家つら山は梢よりさびきつる秋のよれ月

新古今和歌集

坂上是則

雲はらや伏屋よ生ふるもくさうけありと見えと逢はぬ君の形

此巻この二行とより雨と一く 園原ふは本城川の霧を 孫
圓といふ者八月十五夜は月ごとくもよせられかき初あり
伏屋の長者ごらりのほり一車 其母さうけ黒刀自と

つゝ懐食食て老婆が 嫉妬そのあり一やう 又小仙と
いふ女の 寂莫たるといふ悪者よ勾引されたるど
かの長者 貴免うか女が持し鏡と洗と一そ 松山山の
就里と身ねさせしよ 有とハばなぐら 孫よ思あはれ
後年ととらふなかりと 長者が子けらとといふし年と
むつれつるさととまこと 虚こととこりまじく 他りませり

園原山の豊



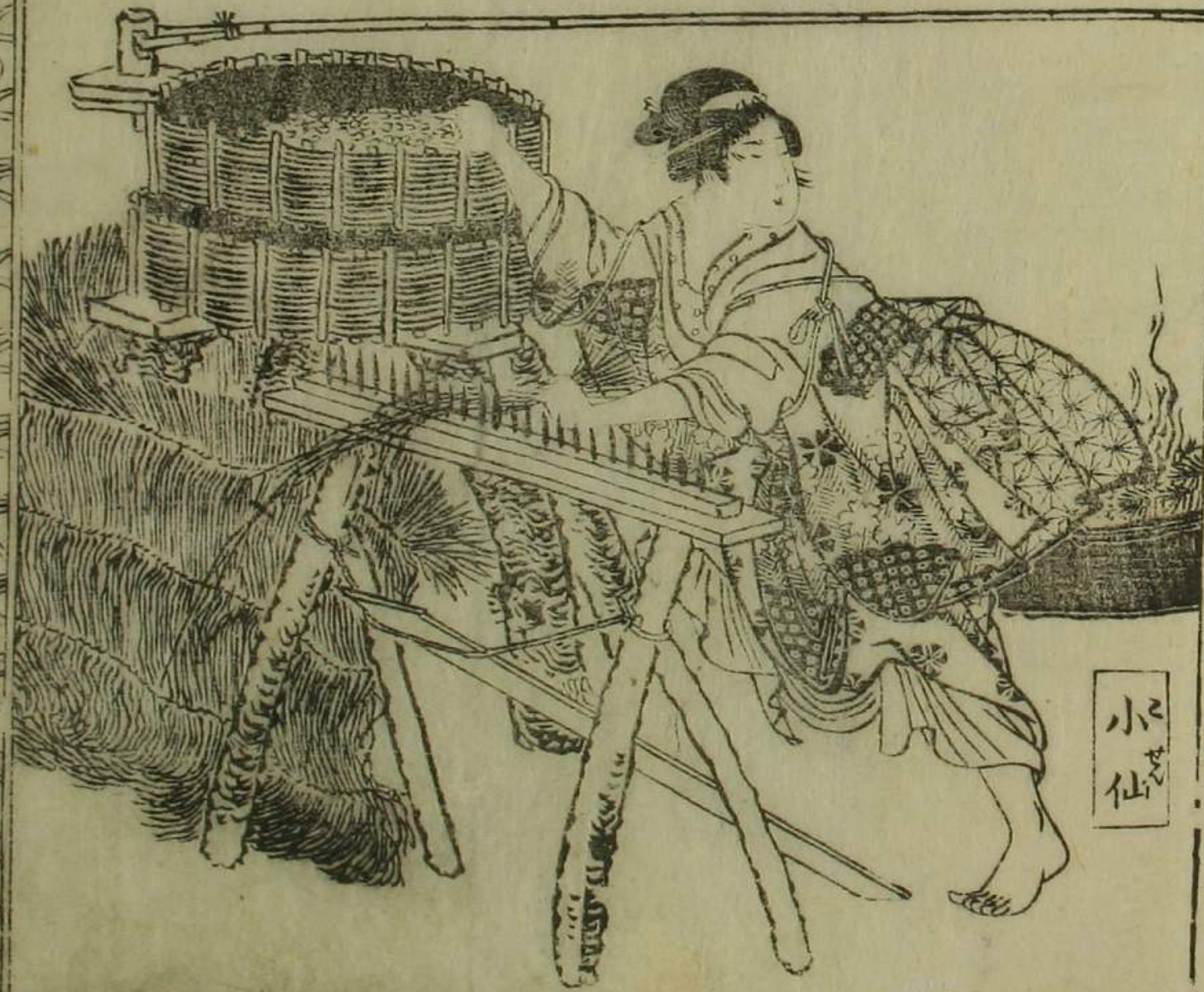
らくさうを

雲赤山の 木のちりり

こめれ物

秋の夜の内

信濃道者伊麻能
 波里美智可里波
 彌爾安思布麻之
 年奈沓波氣我背



小仙

黒乃自



引太

彼兒呂等鼠也
 成奈年波太須
 酒器浦野乃山
 尔月片與流母



必
 冊相

光明遍照十方世界



善
 大

圖物言卷之一

於兔鹿太郎



日乃暮尔

碓氷乃山守

越流日者

勢奈能我

袖母佐夜尔

振思都



本の巻 目録

- 壹 園原山の木賊薊 伏屋里の母木 松山家の古鏡
 - 貳 三原野の牧場 更級山の老桂 糸隈川のまぶれ石
 - 參 寂莫村の組紐 仇母山の終薪 岐積路の丸木橋
 - 四 姨拵山の姥石 久米路橋の埋木 埴科寺の藺金剛
 - 五 長者糸の忘形 浅間嶽の竈火 菅荒野の夢枕
 - 六 芋井里の玉の臼 本島山の黒髪 尊地界のはらけ
 - 七 沓掛宿のくまの聖 蟹場池の白波 街坐湯の霹靂
 - 八 木賊原の放牛 善光寺の常燈 唐猫社のおひ摺
- 附録 伏屋里の考證



月宵鄙物語卷一

園原山の木賊薊

江戸四方歌垣主人著

藤野潔氏遺愛之記

今昔。信濃國埴科郡園原山の林に伏屋の長者とて執徳ある者
 在り。八月十五夜に生れられ、幼名を圓と喚ぶ。今、圓大夫といひて
 卒に近き翁也。其れが祖父の代に園原山の山賊とて世間を去るも
 其の明暮に登て、弓の棒と探針を入て貢物の本城に折返す。牛酥と
 國司に献りたり。終に法を得れば、領酒を乞ふ。其の月、霜さけ、男今
 在に夜、高峯の鈴と保て、永久鶴羽帝の末に疾を以て終る。其子曾平と
 いひり、若くは倭を癖者とて、熟く思ひり。今、朝威衛とて、表へて、國の貢
 物も、成行せられ。我も業も頼母、氣を如何も、驛路に近き里に
 移住てこそ、活半はせ。六十年、前より、里に、這今、の伏屋造りて、同郡



信濃國水内郡善光寺參詣順路之圖相模鎌倉ヨリ行程六十八里

後の為に言わく佳くはやくは言車様と打て滅はたれり。此
 許は恰利人なる張良孔明も男は小野の小町も歎とよま。此は
 了有るん中賞り候びつ。此國は常ちあるを妻は具をを埴科
 寺をせしる。如法多弁の女をれば思ふまじうらて。幼者とふちま
 めは仕済し。都へゆり。此後ハ豆子は纏る者もかく。妻は桶櫃
 と載て市に出で物と賣。まは馬貸。馬をて移ゆ。追ふて候る。程
 ち口は形と積。庭は儀と高。やうは放て肉。田畑賃より。此
 る。一御憎。うて膏平男。候は儀と扱へる。旅人。狂惑。と路恨。と棄
 つらん。版権。と使らん。此は陰言。と。何時。膏平。候て。耳。此。ゆ。と。云
 居ん。此は。此の。此。一御集。て。酒。飲。扱。び。り。而。て。大。勢。對。ひ。て。ひ
 り。此。う。己。近。來。法。米。よ。り。ゆ。ぬ。や。う。候。る。と。附。り。暴。の。り。あ。れ。ば。怪。し。

大坂町
 大坂町
 大坂町

給ふ人もいん。是は。此。て。好。ら。し。話。あり。酒。の。青。ま。き。給。ふ。と。て。
 食。う。る。吸。物。う。て。咽。と。う。人。煤。び。る。扇。と。あ。り。と。ま。ひ。ま。う。一。此。年。を
 大。雪。降。る。且。脊。門。の。敷。差。の。机。の。凍。死。る。等。有。て。可。老。く。思。ひ。て
 引。抱。へ。て。炉。の。も。人。持。来。て。焚。火。と。暖。め。ら。れ。ば。惜。く。ま。て。活。々。と。捨。つ。活。て。
 此。の。垢。氣。は。流。して。石。を。已。渠。對。て。ひ。り。や。う。和。物。と。笑。し。
 各。雪。の。関。ら。し。て。死。び。と。命。助。り。よ。と。實。を。嬉。し。く。お。が。さ。ば。此。身。は。神。通。あり
 人。も。敬。ぶ。わ。れ。ば。い。ま。は。此。身。は。分。貝。窮。く。責。ら。れ。て。飢。死。ぬ。と。命。を。助。り。牛。の
 福。を。授。て。其。後。必。ら。死。せ。修。へ。因果。と。合。り。て。放。ち。や。り。ま。る。見。返。り。し。り。く
 此。時。も。ま。る。本。て。作。り。が。ま。次。の。日。より。毎。日。思。ひ。け。ぬ。妙。と。得。れ。ば。果。て。後。の
 こと。な。れ。形。の。妙。事。な。ぬ。力。を。知。り。ゆ。り。世。は。福。と。い。ふ。有。こ。し。ら。り。
 和。堂。室。も。法。流。の。ま。と。心。は。熱。て。妙。の。人。必。し。と。報。は。作。わ。り。鼻。の。あ。り。

乃の吾春二

り鳴呼々として語るとおぼしき入りに物羨むる者もあり。何れぞこころ人
 賺らば疵めよとてかゝる実ところひいて諷するもあり。其中に我が口もつとて嘗平
 りのやうなふらふらひ課税ど今の物終に化て思ひ出さるるあり。酒に
 えんとて飲しつゝ盃と持あぐ。舟中膝行の村長三郎之徳念の
 おは通ひて世間の事、誠然に世も今様の様ごうこと好くよく利口なる
 若者もが嘗平に向ひて落着つゝや。其評の陰徳もつゝりて疵
 福授の給ひつゝり兼て音ごう受けりぬ。然る回我も何事凍る物ひ
 ろ見付て後々あしと。日以公を想て毛澤舟に舟心と穀り歩いども
 ちも物に出合は公煎操程は去年の所まをり市場より帰るに生社の
 杜の傍の丘の崩れんがまら所あり雪ゆゑ透しこれ舟心見あつ
 正幸こそは方向れし程毎夜城くしてやとらと。望して窺ひより壓付

て捕へてより及れば左程の落睡て居るが。お意あまやうと見えんが。こ
 もあれ。是も三斗の陰徳もあつあんど思ひて。おやつが凍る汁の中へ
 押もあつて。や何と死づく苦きまうと。回バ細きおと出してまう。啼る
 時。首に縄つけておろし架ゆりて。も。受平。定。団。徳。衰。又。某。床
 へて。脊。腹。残。り。ま。暖。を。遣。う。れ。が。い。ま。う。く。城。が。ら。て。涎。と。ま。う。く。と
 意。一。股。鼓。と。ま。う。ん。打。て。ゆ。り。る。今。は。仕。渡。した。く。渠。が。前。を。と。下
 額。索。て。神。仏。は。祈。言。や。う。こ。ひ。る。ハ。和。狸。と。う。さ。ら。う。め。を。力。も。目。一。つ
 かり。童。を。化。眼。三。つ。あ。る。入。る。も。あ。ま。う。く。の。ハ。神。通。の。物。を。香。を。凍。えて。死
 び。と。我。は。助。ら。れ。て。城。へ。お。が。さ。ま。の。陽。報。を。給。へ。秘。金。も。教。多。放
 美。目。佳。女。房。も。三。人。授。給。へ。南。無。獨。く。の。炉。の。端。を。お。れ。居。程。は。説。き
 程。が。ら。う。尾。の。あ。る。近。近。念。衣。を。披。たる。や。う。ゆ。く。と。暖。ま。う。く。合。せ。て。え。か

伏見白旗
天へいふ
平願し
の眼と
うけと
あつた



邪切吾妻



圖物語卷之一

七

大さうとて、識さるる事候て、後平が後家、信房に討ひてやも、銭ありやうに
 れど、夫死てまゝ、外に跡を継ぎ子位あり。年来、編み物賣子とて思ひ定
 て上を立つ、伴圓されど、わけて、今度、一圓が男より、毒とも
 迎へて、子位多くも、産せしむ、其内一人、渠が代りて、又とて、なすなれと。
 減ぬ、親よひ、女と。傍よ、子位、子た。ほ、よ、頼房、一、思ひと、なれ
 ば、益く、販よ、え、き、て、何、よ、ぞ、け、女、人、一、度、仏、門、よ、入、る、者、と、親、甲、斐、よ、俗
 さ、せん、と、己、の、ま、か、ら、可、也、や、穂、一、と、圓、ま、で、と、地、獄、の、底、よ、墮、さん、と、さ、る、る。
 渠、故、そ、く、び、突、て、退、出、せ、と、皆、立、う、る、と、在、俗、不、當、の、輩、と、相、手、よ、何、よ、と、立、強
 ど、と、割、り、て、信、房、の、膝、を、く、圓、と、呼、ぶ。老、眼、よ、涙、と、浮、り、て、い、と、や、う、い、汝、七、某
 々、和、し、我、山、よ、登、り。今、年、既、よ、十、二、某、は、七、年、が、同、く、我、つ、久、圓、子、よ、膝
 ぐ。其、の、ま、る、に、親、登、り、か、く、書、續、り、と、好、つ、れ、ば、門、典、ハ、い、と、い、と、漢

いよ、あられ、前、の、石、を、給、へ、る、お、ひ、ろ、う、給、り、て、袈、紗、衣、も、お、ひ、て、お、是
 々、い、ま、月、堂、よ、金、佛、の、ま、り、て、飛、ぶ、あ、む、り、と、も、や、竹、う、ん、と、圓、栗、の、や、う、の、目、と
 ち、よ、と、さ、て、い、か、せ、よ、虚、言、と、い、ふ、も、ね、田、舎、法、所、の、甚、も、や、と、教、よ、び、て、お、よ
 觸、縁、よ、引、き、て、法、よ、ゆ、き、る、敷、巾、の、あ、ら、綾、錦、の、衣、も、も、情、し、む、べ、お、お、
 しく、即、着、ら、れ、る、空、が、條、の、布、小、紐、の、縁、ぶ、く、よ、も、と、い、ぬ、ま、で、給、び、し、れ、ば、
 裁、や、運、ま、は、花、の中、よ、取、り、と、圓、に、耻、し、と、思、ひ、居、ら、る、と、や、日、も、暮、る、ん
 ぶ、と、て、引、立、て、所、の、僧、よ、職、や、を、は、置、き、て、い、と、い、つ、か、と、男、を、ハ、給、り、
 て、肩、ひ、れ、圓、の、お、し、も、よ、父、の、新、墳、よ、詣、で、水、の、向、義、奉、り、又、爰、と、て、お、お、と
 きて、お、お、り、と、夜、の、土、よ、成、と、も、あ、ら、ぬ、空、氣、若、き、の、織、よ、法、所、月、六、性、お、
 の、用、よ、立、ま、う、と、い、と、吃、り、月、て、引、連、依、を、へ、り、り、
 伏、屋、の、里、れ、母、木

伏屋の里れ母木

如色平年地夜新

斯て圓十五歳の春元服せさせて園太史とよび二代の長者といふを
寺育ちの欲とあはれして御令をいふにせむ母のまゝに我まの領
て曾系が在る時よりも昔よりいられぬ内弁の若くはと黒刀白、異名
して思れありけ姫着りけは極めて色よく顔勝る氣にて在るが
彼もいふらるが情。草後ハ履バ破るが出りておへり長て思日も
取重解き。徒跣袴腰そ田畑と見え。家よれば田舎裏のものと離れ
に他の坊主ぬ古本のを替てまゝ返りぬと標と塗るやうなる
へ純色の物と帯と着るはさびさびと伝名と付られらるが富は頑
もつら次安欲とに思源さ園太史へ行ひと敷使の子の宗承とて
海飛及より幼て水貴ふ田長彦より山妙を以て後其
陰徳の報りやび二千餘年迄平恒貧の家。神の陸地もる。年々

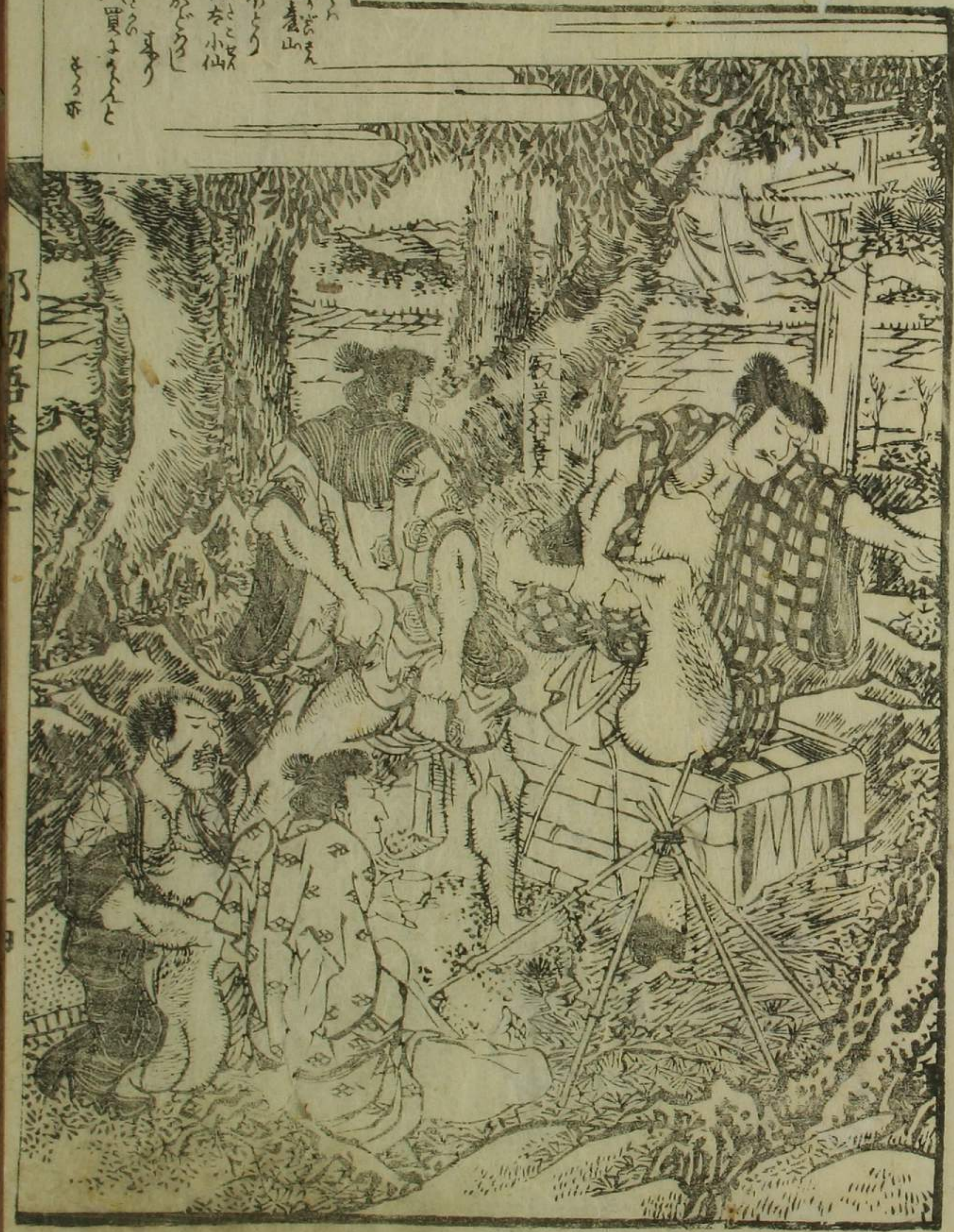
蓬萊巻

増く秋風の里の灯つ本垣。あしけまら白浪と。鎌倉の園も
し。い。ま。ま。境。も。ら。も。縁。と。求。り。て。妻。と。送。ら。ん。と。あ。る。雨。の。こ。も。い。ひ。し。れ
ど。母。の。ま。ま。の。中。に。お。も。ろ。く。な。る。と。あ。る。合。で。有。り。か。扱。も。あ。る。と
早。に。近。き。母。の。牛。ひ。を。妻。と。送。ら。ぬ。是。も。陰。徳。の。報。り。有。り。ん。途。へ。同
か。と。妻。の。腹。に。お。の。中。に。お。も。ろ。く。な。る。と。あ。る。合。で。有。り。か。扱。も。あ。る。と
の。園。太。史。と。よ。び。お。も。ろ。く。な。る。と。あ。る。合。で。有。り。か。扱。も。あ。る。と
生。出。る。の。後。に。お。も。ろ。く。な。る。と。あ。る。合。で。有。り。か。扱。も。あ。る。と
これ。と。可。も。ら。う。て。お。も。ろ。く。な。る。と。あ。る。合。で。有。り。か。扱。も。あ。る。と
蓬。萊。の。山。に。お。も。ろ。く。な。る。と。あ。る。合。で。有。り。か。扱。も。あ。る。と
お。も。ろ。く。な。る。と。あ。る。合。で。有。り。か。扱。も。あ。る。と
の。若。く。は。お。も。ろ。く。な。る。と。あ。る。合。で。有。り。か。扱。も。あ。る。と

とゆては、流石を、流石を、振放して、睨つけ、已も利、立比の、
 二、似て、も、それ、吼、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 後、脆、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、う、
 より、我、独、百、二、百、五、も、存、命、居、て、行、後、全、と、殖、を、か、れ、や、れ、已、せ、よ、
 今、争、今、何、方、も、失、上、と、中、も、子、を、指、て、泣、泣、と、娘、の、顔、髪、と、う、う、
 い、て、く、と、小、々、か、る、程、り、ま、き、や、も、其、食、付、ぬ、べ、い、後、所、ハ、債、ま、か、ら、せ、て、
 又、わ、り、に、餘、り、の、事、も、思、ひ、て、大、刀、月、と、押、ま、さ、て、中、心、と、持、つ、て、
 の、種、刀、月、の、う、り、立、給、へ、る、容、体、と、娘、の、眼、約、と、う、口、喘、と、聲、と、震、り、
 全、肝、火、の、熾、盛、せ、る、業、も、か、ら、ん、思、と、中、考、れ、肝、本、侮、脾、土、脾、因、肝、旺、
 し、い、ら、病、え、よ、う、さ、び、後、ね、が、な、れ、と、治、せん、期、門、と、灸、と、を、え、三、黄、湯、
 と、後、落、と、加、味、と、く、ま、や、い、と、い、れ、ハ、刀、月、と、駭、所、と、睨、居、え、て、晴、ま、

事、を、三、四、者、聲、して、口、叩、く、野、巫、取、れ、よ、う、さ、り、に、入、り、後、悔、も、已、
 知、じ、と、思、ふ、日、來、我、山、林、入、て、黄、蓮、刺、辛、を、盜、と、採、と、と、遠、く、
 通、る、程、然、も、あ、ら、は、一、郷、の、内、と、追、拂、え、し、罵、る、時、は、醫、所、伏、月、あ、り、て、
 至、る、が、又、何、も、と、云、給、さ、れ、ん、と、産、を、立、て、急、ぎ、せ、り、其、後、馬、を、飛、ぶ、が、
 よ、う、懐、く、ら、う、や、も、保、と、二、度、あ、ら、う、と、澄、と、お、し、踏、と、う、つ、辛、じ、て、家、
 へ、と、これ、と、駭、所、倒、れ、び、と、い、ら、ん、と、自、ら、利、口、と、居、る、を、長、者、ハ、刀、月、
 の、機、嫌、損、ひ、つ、る、と、返、り、思、わ、れ、て、怨、角、は、飽、く、之、邊、は、病、跡、を、妻、と、く、り、
 兼、も、く、れ、は、心、中、は、神、仏、と、念、し、て、善、れ、牌、を、十、四、五、葉、も、う、ら、ん、と、妻、を、令、延、
 一、の、病、は、病、愈、し、ぬ、が、病、を、立、つ、者、病、と、り、弓、太、ハ、祖、母、刀、自、の、目、と、思、ひ、
 母、の、病、加、ふ、よ、う、思、ひ、來、て、接、接、も、日、は、流、く、輕、母、一、か、な、れ、ハ、我、と、く、比、較、は、
 儕、は、伏、て、母、の、後、と、影、を、引、被、て、泣、寐、入、ま、さ、る、と、病、者、ハ、善、觀、て、
 一、三、
 一、三、

くわん
鐘
の
わ
の
れ
を
か
ひ
人
買
よ
ん
と
き
の
中



乃
刀
吾
夫
一



品
物
吉
巻
之
一

十三

経て有る夫の長者よ。これこそ人の子たるを切心地にも。我病
 ひと昔や中て。いざなれり。ことごとく。二葉児の纏い。老ても。妻らぬ。わが
 爺山の。もめ。未だ。あも。孝の子。こり。我の。父母も。おれ。世。思ひ。金こ
 し。なれ。是。ど。人。も。り。て。孫。会。後。官。位。ま。と。り。な。ぬ。ぬ。が。地。は。情。を。た。ぬ
 如何せん。我。や。成。ぬ。も。撮。へ。て。い。ま。は。世。界。の。國。に。埋。り。ま。じ。一。度。の。清。所。の。海。の
 身を。せ。せ。せ。と。涙。を。流。さ。し。て。云。ふ。ま。り。ま。り。の。事。は。物。の。げ。れ。ど。お。れ。昔。一。氣。に。あ
 ら。ま。れ。ば。長。老。の。脊。と。擦。撫。ま。り。世。中。の。思。ひ。子。と。何。の。打。捨。て。か。い。ま。ま。千
 代。の。折。る。子。の。あ。ま。如何。も。し。存。命。ん。の。か。が。さ。ば。や。と。う。今。も。勵。ま。し
 え。ま。ま。ま。ま。と。思。ふ。下。行。水。の。涙。を。さ。ら。る。よ。妻。の。杖。杖。ひ。故。ぬ。末。の。弓。右
 が。後。教。え。ら。れ。と。こ。れ。流。る。が。と。は。か。り。て。母。の。取。廻。今。も。死。て。お。れ。と。お
 ら。ん。阿。児。も。必。に。伴。ひ。て。お。れ。の。後。よ。歩。け。と。う。願。は。ん。と。ら。ね。ば。は。

物とて泣が父母も。え。微。心。に。な。ま。と。立。て。泣。く。其。夜。中。を。り。終。る。あ。ま
 て。失。な。れ。ば。教。子。の。者。は。月。日。も。あ。ら。じ。歎。き。ま。ま。と。刀。自。不。用。の。口。に。さ。ら
 減。つ。て。お。ひ。て。物。も。思。わ。ぬ。家。の。内。に。在。る。さ。ら。の。男。女。は。失。う。妻。の。情
 海。く。ま。る。子。と。な。り。あ。ひ。意。は。ら。る。ふ。も。刀。自。も。ぞ。や。と。ひ
 そ。め。さ。あ。ら。り。り。初。ま。ま。付。て。刀。自。と。思。れ。ぬ。れ。ば。中。陰。の。中。に。を。待。ち。者
 門。を。食。の。難。ひ。も。ま。む。し。欄。を。り。者。も。多。く。苦。苦。痛。ま。ま。て。夫。同。と。つ。ん
 合。ま。る。こ。も。娘。の。情。を。追。打。ぬ。半。は。吃。茶。し。て。妻。月。に。長。老。者。執。つ。て。あ。ま
 我。は。怪。し。氣。あ。る。疾。く。失。は。れ。し。と。見。取。入。安。ま。つ。れ。ど。其。以。ち。も。よ
 在。て。如何。の。故。も。ま。ら。り。き。今。眼。の。あ。ま。妻。と。失。ひ。ま。ら。る。母。の。心。を。今。も。危。く
 後。て。意。悲。情。と。よ。て。あ。ま。ま。り。後。世。危。げ。之。背。所。の。聖。の。汝。が
 宿。業。い。と。世。の。あ。ま。と。思。ひ。出。ま。り。有。る。速。く。善。と。祈。し。徳。と。積。

へうー力の草子と一筋我後まきねば思ひあぐ然る楚りせで今日を
 徒らよこしつる悔まきよ。や母の目と掠る罪ありも佛は何事し
 人の施え。結句ハ両親の菩提も成妻が為もあらぬ。思ひ定めて
 武内母刀自の持屋と足解。活計の物持のついでよひ出らる。我我幸又母の
 多幸の舟船を田畑多く山林三千戸候よひくさく。年々豊豆色あり水
 早若志ぐくあら倉庫空しくらん。然れば吾人も農不如工工不如商と
 ことやられ。化員殖の術凡商は増こあは行ゆるれば人集り財は我あり人
 取財は我手。結句買て米く賣が故。高とるごとく速くも年の考。出は
 拘らば今表家の門前。米物も小店をさき。京鎌倉と得意く我山谷
 多幸の草根本皮と洗は換は足まき。活計よひはや。や何も能持よ
 思はれ。統一深き母刀自も飽まを百得あり。守てまは眼を眩ませてさく

の不浪とて。老老と波一ま。親子いごん。多くの金浪とて
 是より。親老より。是より七才の定を利是と。又商の輝も
 小童用と我方。他むべ。斬も不法のこ。暮す。勢う。て。後者
 ハ仕済て。程て。米種店と。あ。ひ。病者。米と。絶。小童人。材と。あ。を
 て。考ら。陰社と。行ひ。も。か。種。多。妻の。三。周。も。あ。り。れ。ば。弓。太。と。提。へ。墓。小
 より。寂。真。村の。池。蔭。舎。よ。後。々。々。入。る。と。里。離。の。並。木。あ。る。所。と。さ。り。の。松。の
 本。深。三。方。よ。子。孫。の。さ。る。と。あ。げ。て。啼。聲。し。も。れ。物。と。あ。ら。ぬ。教。れ。よ。す。あ。こ
 れて。遠。ま。り。親。て。つ。れ。が。お。む。け。る。博。お。さ。る。と。さ。り。と。氣。を。着
 共。三。四。の。芝。原。ハ。胡。坐。換。て。さ。る。余。の。後。六。七。年。あ。り。女。使。と。中。に。居。て。世。を
 来。せ。否。十五。年。あ。る。と。さ。り。と。さ。り。と。廿。利。あ。ら。ん。及。ん。中。也。長。老。ま。て。痛。ま。思
 の。奴。原。ハ。何。國。の。人。の。思。ひ。子。と。引。り。来。て。つ。れ。何。方。ハ。賣。渡。ん。と。さ。り

繪冊子をどいせて弓矢といつてはたしむつ。母も乃と迷ひ居る子と親里
 中出て送りやらんとて連來つうにせられた。例の俊腕がうらたれ覺思と
 つれ来て一斤餉の飯費やとていふと憤り居る。其夜もうて長者子信の抱ひ居
 る所よ來うて阿豆いふとさ物も今も親里告うて其信を送るべきとて
 如何のそ波もよ引され来じぞ。再び居れば信を思ふ阿豆かろく流るや
 哉後の國方松のおらふ所の者もて名をば小仙とて父母もあつ母の居るや
 此父と於免よあつて里人の呼び居る。さういふ向は流る者の子とてあ
 りトとらんれよ。ま野の群約と加賀深うとるまねとて。おとのお影の顔深
 の常志とる。灯籠はひひて抱ひ居る口よりお影づくと眉のあつおまの目
 ばかり泣くも中く不美とる。失うて妻よ家より仙とてつとるよ。おれは
 りて。於親里尋子とる役りよ。あづと物や抱くも人。懐り。彌兼お信

いふ。さあさう積と取ゆて是の母の祖母の母より持傳へる物とて守
 られは標よ懸てあれとて前日松の山家とてまされて異正移ひ行くと
 縁立とる。賈よ母の孫はせ。物なう。如何の故を何の由へ往とてよ。お
 弁へ秘と。鮮衣とて父母よお連出ると娘おこるといひて走り先を連て
 行つと。柳よ舞つるとて人ましく立居ると中とて然も面白く舞よと。お
 音のしれんも何とど潜入て又居るがごとく面白く舞よと。おれ
 じんも人母とて。信の方とて返りつと。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。
 尋れど。親の親も。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。
 お前の物の給ひ。賑大まき。男の集合とて中る。阿豆の親を先程と
 被下と在ておれとて。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。
 又作せつれとる。いざとて。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。おれは。

